

令和 5 年度第 2 回長久手市環境審議会 会議録

(敬称略)

日時	令和 6 年 1 月 15 日 午前 10 時から午前 11 時 30 分まで
場所	長久手市役所北庁舎 2 階第 5 会議室（対面及びオンライン併用）
出席者	委員 16 人中 15 人出席 会長 岩渕準（学識経験委員） 委員 石橋健一（学識経験委員） 委員 増田理子（学識経験委員） 委員 伊藤雅一（学識経験委員） 委員 荒川俊史（企業選出委員） 委員 鶴見紘二（企業選出委員） 委員 廣田賢一（企業選出委員）（zoom 参加） 委員 山本崇宏（企業選出委員） 委員 辻武史（企業選出委員） 委員 鬼頭和宏（団体選出委員） 委員 高村光一（団体選出委員）（zoom 参加） 委員 田代はるみ（団体選出委員） 委員 森山輝久（公募委員） 委員 村越生（公募委員） 委員 大須賀詩乃（公募委員） 市（事務局） くらし文化部長 門前 健 くらし文化部次長 嵯峨 剛 環境課長 富田俊晴 環境課長補佐 森 健一 同課環境係長 山田菜美 同課ごみ減量推進係長 大谷悠
欠席者	委員 1 人 長谷川明子（学識経験委員）
報告事項	1 令和 5 年度事業進捗報告 2 長久手市一般廃棄物（ごみ・生活排水）処理基本計画素案について
公開・非公開	公 開
傍聴者人数	0 人

2 報告事項	
1 令和5年度事業進捗報告	
2 長久手市一般廃棄物（ごみ・生活排水）処理基本計画素案について	
事務局	1 令和5年度事業進捗報告 資料1に基づき説明。

地域単位での美化活動について

会 長	地域単位での美化活動について、市はどのように支援しているか。
事務局	市民からの要望に応じて、地域でのごみ拾い活動には、地域活動用のごみ袋を提供して、ごみの量が多い場合には、拾い終えた後、回収に行くこともある。
会 長	以前、土木課でも、地域清掃活動を呼びかけ、参加者を募集していた。 数年前から他市町で道路維持のアダプト・プログラムを導入しているところがある。 もう少し活発になると良い。 道路のごみポイ捨ては、どこでも問題になっている。防止にも努めてほしい。

紙の使用削減について

委 員	他では紙媒体の会議資料は印刷されず、データ資料とタブレット端末の使用が進んでペーパーレスへの転換がされつつある。本会議もペーパーレスに努めるべきでは。
会 長	可燃ごみの中に個人情報載っている紙を入れることがある。 個人情報載っている紙はシュレッダーをするべきで、市で市民へのシュレッダー購入補助の検討を願いたい。
事務局	今後の取組の検討課題とする。

ペットボトルの水平リサイクルについて

委 員	ペットボトルについて、長久手市では、どのくらい回収量があるのか。
事務局	令和4年度は約130トンを回収しました。令和5年度の回収量については増加傾向にある。 ペットボトルについては行政回収と市民がエコハウスへ持ち込みをすることで、回収に取り組んでいる。
会 長	豊田通商（株）へ現地視察をしたか。
事務局	これまでに2回視察した。
委 員	コンビニ等、事業所におけるペットボトルのリサイクルの取組等について把握しているか。
事務局	把握していない。事業者の取組に任せているのが現状である。
委 員	行政が回収するペットボトルの排出割合はどれくらいか。
事務局	事業者の排出量を把握していないので不明ですが、行政が回収するものについては、行政回収が1/2、拠点回収が1/2となっている。
委 員	令和4年度は130トンを回収したとのことだが、この量は瀬戸市、尾張旭市、長久手市の合計か。

事務局	長久手市のみです。人口規模も関係しますが、瀬戸市の排出量は長久手市の倍程度、尾張旭市は長久手市より少し多い程度である。
会 長	この取組にコンビニ等も協力してもらえると良い。

2 長久手市一般廃棄物（ごみ・生活排水）処理基本計画素案について 資料2に基づき説明。

表1 計画目標値について

委 員	主要成果指標と成果指標1は、どのような違いがあるのか。
事務局	主要成果指標は1人1日当たりの可燃ごみの量を示している。 成果指標1は1人1日当たりの可燃、不燃、粗大ごみの量を示している。
委 員	令和4年度実績をみると可燃ごみの中に資源化可能物が多く含まれていることが分かる。資源の分別強化に努めてほしい。
事務局	市では資源の分別を強化していくため、19のアクションプランを策定した。 例えば、プラスチック（以下、プラという。）等、資源となるものをご家庭から出しやすくするため、プラの指定袋の小さめサイズを新設したり、プラのルート回収を毎週にするなどの施策を考えている。

資源化の促進について

委 員	資源化が進んでいないように感じる。原因はプラ製品の分別が複雑であることではないか。また、エコハウスで袋なしで回収してもらえると良い。
事務局	確かに、製品プラは可燃ごみで、プラ製容器包装は資源として分けているが、分かりにくいこともあるかと思われる。 今後、これらのプラを一括回収し、さらなる資源化を促進していきたいと考えている。
会 長	プラの一括回収について結局、ごみを出す方が分別するのが大前提と考える。一括で回収した後の分別に手間がかかるのでは。

大学や学生と協働連携した広報、啓発、デザインについて

委 員	市民からの問合せの結果が市ホームページで分かるようにしてはどうか。 分別や資源化の啓発など大学や学生らを活用して情報発信できないか。
事務局	市ホームページでQAを掲載できると良いと考えている。 啓発方法については、従来は広報と市ホームページ程度だったが、啓発の媒体を増やす努力をしている。例えば、自治会の回覧で「ごみ減量化通信」を毎月発信し、市ホームページにも掲載しています。また、ケーブルテレビでも特集を組み、定期的に放映している。 大学連携といった意味では、今年度、新しく増車する収集車の車体デザインについて、愛知県立芸術大学の学生がデザインした。
委 員	特に学生は広報、HPをあまり見ていないのではないか。 学生にも分かるように、ごみの出し方についての情報媒体の検討をすべき。
委 員	尾張旭市でも同様の一般廃棄物処理基本計画を策定中で、ここでは学生の意見を取り込んで策定している事例がある。

会 長	資源分別の啓発のため、チャット Bot を「さんあ〜る」に実装してどうか。
事務局	今後の取組の検討課題とする。

各実績データ等の公表について

会 長	1 年経過しないとごみ排出量の結果の公表しないということではなく、その都度タイムリーに結果公表してはどうか。
事務局	実績データや資源の分別の周知、啓発等について、広報、HP のみならず、ケーブル TV、自治会回覧など媒体を増やすことで適宜、見てもらえるように取り組むこととする。 また、市民からの問い合わせへの対応として Q & A を分別ガイドブック等へも掲載し、みてもらえる機会を増やすことに取り組みたい。

3 その他

委員会の終わりに

事務局	今回、報告しました一般廃棄物処理基本計画については、2 月からパブリックコメントを実施する予定である。 今年度、定例の委員会としては、今回が最後の開催だが、環境委員会委員の任期は、3 月までとなる。
会 長	能登の大地震で、災害廃棄物等についても問題となっている中、本市におかれても、いつ起きるとも知れない自然災害について、改めてもう一度、対応の準備を考えてしてほしい。 私の委員としての任期は満了となります。お世話になりました。引き続き、今後も環境に関わるボランティア活動等へ携わっていきたいと思っている。 本日、委員の皆さまにおかれましては、委員会の円滑な運営にご協力いただき、ありがとうございました。

以上